

令和5年11月1日

隠岐支庁 農林水産局 農業振興部

標 題	農業士等と連携した令和5年度農業普及指導活動中間検討会を開催
------------	---------------------------------------

(ダイジェスト)

令和5年10月26日、隠岐島農業士会に所属する指導農業士と隠岐の島町担当者、JAしまね隠岐地区本部担当者、県関係者を交えた中間検討会を開催しました。

この中間検討会では、普及計画に位置づけている「隠岐圏域をマーケットにした水田園芸の確立」を進める上で課題となっている「生産拡大」や「流通・販売」をどのように進めていくべきかをテーマに設定し、グループワーク形式で検討を行いました。各グループから発表されたアイデアや意見は、分析・評価し、今年度下期の普及指導活動に反映していきます。

当農業振興部では、10月26日、隠岐島農業士会の指導農業士や隠岐の島町担当者、JAしまね隠岐地区本部担当者、農業経営課職員、農業技術センター職員を交えた普及指導活動中間実績検討会を開催しました。

外部を交えた中間検討会は、困難課題への突破口を見出すため、地域の現状をよく知る指導農業士等が議論の輪に入ることで、普及関係職員だけの議論では得られにくいアイデアや意見を収集し、その分析・評価、活動への反映を通じて、下期における普及活動のレベルアップに繋がりたいとの思いから企画しました。

中間検討会はグループワーク形式で行い、隠岐での園芸生産を拡大するため、グループ1は「栽培農家や面積を伸ばすにはどうしたらよいか」、グループ2は「隠岐での流通や販売はどうあるべきか」をテーマとして、①課題や②強み、③夢・アイデア・解決策などについて、活発な意見交換を交わしました。

グループ1からは、担い手支援の充実や就農時のリスク緩和、支援体制などについて、グループ2からは、隠岐産青果物の特徴が分かる販売と消費者への認知度向上、生産現場と店舗を繋ぐ流通の仕組みづくり等に関するアイデアなどが発表されました。

当部では今後、各グループから発表されたアイデアや意見を分析・評価し、今年度下期の普及指導活動に反映していく考えです。

また、隠岐島農業士会会長からは、「農業士と普及・関係機関の連携は重要」との評価を得ており、今後も連携を深めていきたいと思っております。



【左：発表の様子、中・右：アイデアの詰まった模造紙】